

編集 後記

会員の皆さま、明けましておめでとうございます。本年が皆さまにとって実り多き年であることをお祈り申し上げます。さて、本誌は、昨年末にかけて大きな変化がありました。投稿規定の改訂と、掲載論文のインターネット上の全文公開です。

前者については昨年の11号の編集後記ですでに小林編集担当理事が述べておられますが、ここでは投稿原稿の種類の変更について再度述べさせていただきたいと思っております。この点については実に16年ぶりの改訂ということになりますが、従来、原著性が低いと考えられる調査・分析系の論文に対して付していた「資料」という名称を「研究ノート」と変更することにしました。したがって、原著でない論文は、以下括弧内は新投稿規定上の定義ですが、(1)「研究ノート」(公衆衛生上重要な調査・分析に関する報告)、(2)「公衆衛生活動報告」(公衆衛生活動に関する実践報告)、(3)「資料」(公衆衛生上有用な資料)などに分類されることとなります。昨年の11号からこの分類を適用しており、個人的な印象ですが、今までどころ、分析的な論文だと「研究ノート」、実践の報告・評価だと「公衆衛生活動報告」、分析より記述が主体でデータ自体に価値があると考えられると「資料」と分類されると考えております。

実は、分類の細分化に対しては反対論もありまして、(1)公衆衛生学が学際的な学問であることから原著性の判定は難しいこと(実際、委員会でも原著かどうかは議論が分かれるケースが多くあります)、(2)公衆衛生学が実践的・応用的な学問であることから純粋の意味での原著(すなわち、誰も考えつきたことのないモデルにもとづくあるいは方法論を開発する研究)が考えにくいこと、が指摘されております。この考えに従えば、「原著」、「研究ノート」、「公衆衛生活動報告」などは区別せず、すべて一括して「調査研究論文」(仮称)にするという選択肢が考えられます。投稿原稿の種類については今後も検討していきますので、著者・会員からの御意見をぜひお寄せいただきたいと思います。

変更の第二点目である掲載論文の全文公開については、長年、編集委員会の希望でありましたが、今回、理事会の御英断をいただき、学会ホームページ上で(会員ページ・一般ページを問わず)公開することになりました。現在のところ、2001年以降最新号までですが、今後、さらに公開範囲を拡大し、1995年までさかのぼることを予定しております。

インターネット上のPDF公開は、本誌掲載論文が世間の目につく機会が増加することになりますし、医中誌やPubMedで検索した論文を直ちに学会ホームページ上で閲覧できることとなります。

昨年の夏に発表された学術会議の「学術誌問題の解決に向けて—包括的学術誌コンソーシアムの創設—」によると、わが国発の学術情報のaccessibilityを高めることの重要性が強調されております。本誌は主として国内向けですので、いきなり国際的な情報発信とまではいきませんが、国内におけるvisibilityを高める意味で、今回の全文公開はまことに時宜にかなったものとする次第です。

今年も、よい研究・実践の御寄稿をお待ち申し上げます。
(甲斐 一郎)

次号予告 (第58巻・第2号)

原著

Decrease in Birth Weight and Gestational Age by Arsenic among Newborns in Shanghai, China
.....Lei Xu, 他

公衆衛生活動報告

形式の異なる生活習慣改善プログラム選択の決定要因および継続者と脱落者を判別する参加者属性の検討.....中根明美, 他
職域における健康教室参加者からの教育波及効果を意図した保健指導プログラムの効果
教室参加者の学習内容の伝達と非参加者への影響
.....千葉敦子, 他

研究ノート

首都圏の中学生の最近のメンタルヘルス問題
.....松田 修
現任保健師が認識している公衆衛生における現状変化とその改善策に関する質的研究
.....湯浅資之, 他

連載

健康の社会的決定要因(10).....相田 潤
ヘルスサービスリサーチ(7).....加藤剛平
社会と健康を科学するパブリックヘルス(3)
.....山崎 新